

桜川について

桜川は、桜川市鋤柄山(くわがらさん)(標高274.5m)に源流とする県南地方最大の川である。鏡ヶ池が源流とされることが多い。上流から中流域は、筑波山系の山ろくの田園地帯である桜川市、つくば市を流がれ、下流域は土浦市の中心市街地を流れ、霞ヶ浦に注ぐ。桜川は流域の文化、歴史や産業と深いつながりをもっている。

昭和61年には、中上流域において大きな水害があり、重点的な整備が進められた。

●流域面積：350.3km² ●流路延長：64km

名前 ()



鏡池

宝篋山(ほうきょうさん)について

宝篋山(ほうきょうさん)は、茨城県つくば市と土浦市との境に位置する標高461mの山である。筑波山から南東に連なる筑波連山の支峰の一つである。地元では小田山と呼ばれている。小田地区には登山道の起点となる宝篋山小田休憩所も設置されている。

上流の観察のポイント

- ・ごつごつとした大きな石があり、急なところを流れている。水量は少ない。

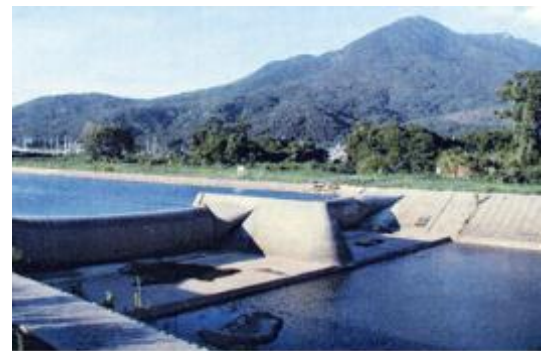


北条の堰(せき) ゴム製起伏堰

ゴム製の堰(せき)である。堰は今から800年の昔、鎌倉幕府が国を治めた建久年間、城主多気太郎善幹公が石で堤(石堤)を造った。そして水田に水を引くための用水路を造ったと伝えられている。大正初期には、コンクリートでできた堰に改築され、現在の堰は桜川河川改修の工事により平成11年に完成した。

中流の観察のポイント(人工的な川)

- ・川の回りはコンクリートで固められ、ゴム製の堰で農業用水に川の水を活用している。
- ・農業用水はつくば市の水田をうるおし、豊かな実りをもたらしている。



北条堰

下流

つくば市松塚

観察のポイント（自然な川の様子分かる）

- ・川の流れるはゆるやかで、川の周辺には植物がたくさんあり、自然にあふれている。
- ・岸边には川の水が増水したときにけずられたあとがある。（けずるはたらき）
- ・川底には丸い小さな石が多く見られる。
- ・川の周辺には、ヨシやヤナギなど多様な植物がある。



下流

土浦市土浦橋付近

観察ポイント（この場所から上はまだ自然が残っている。下の方はコンクリートの岸である。）

上流の方

- ・自然が残っている。植物や魚のすみかがある。
- ・中洲がありどろや砂が積もっているのがわかる。
- ・流れがゆるやかである。



河口の方

- ・岸はコンクリートで自然が少ない。
- ・流れがゆるやかである。
- ・同じ種類の植物がはえている。

